



森林学科第1期生の皆さんと講師を務める県職員(農林大学校富士川キャンパス)

開講1周年 農林大学校森林学科

令和5年4月に開講1周年を迎えた専門学校山梨県立農林大学校森林学科。ここでは、現場の即戦力となり、県内の林業をけん引する、高度な知識や技術を備えた人材を育成しています。

実践的な知識と技術を
多くの現場で身に付ける



農林大学校 森林学科
山岸 稔 専任講師

のほか、県内各地の県有林や民有林で、植栽や伐採などに必要な技術を磨き、チェーンソーや林業機械の操作といった、現場で求められるさまざまな資格を取得していきます。

県内の森林組合や林業関係の会社の協力を得て、下草刈りや木材生産などの現場を経験するほか、製材・合板工場や木材市場も見学します。生産から流通に至るさまざまな段階を県内外で体感しながら、現場に近い学習を積み重ねていきます。

森林学科の修学期間は2年間で、キャンパスは県の森林総合研究所(富士川町)内にあります。学生はここで林業に必要な知識と技術を基礎から学んでいきます。主に指導に当たるのは、林業普及指導員の資格を持つ、私を含めた3人の県職員です。第一線で活躍する技術者や大学教授など、各分野の専門家も講師に加わり、現場で導入が進む高性能林業機械の操作技術や情報通信技術を活用したスマート林業といった最先端の林業も学ぶことができます。

授業時間全体の約6割を実習が占めるのが大きな特徴です。キャンパスに隣接する86ヘクタールの実習林



県内外で木材生産の取り組みを視察

昨年入学した第1期生は9人で、高校で林業を学んだ学生もいれば、商業科や工業科、普通科出身で、入学後初めて林業に触れた学生もいます。少人数ならではのアットホームな雰囲気漂う中、みんなで楽しく学生生活を送っています。ここで築いた人間関係も良い学びにつながっていると感じます。

1年間共に学んだ今、9人全員が私たち講師も感心するほどの知識や技術を身に付け、さらに高度な内容を学ぶ意欲も旺盛です。2年次には森林組合や会社でのインターンシップなどに臨み、より実践的な知識と技術を習得していきます。

未来を創る若い力に期待



林業機械実習

シミュレーターを使い高性能林業機械の操作技術を習得



先進林業実習

先進的な取り組みを進める現場を体験



素材生産実習

実習で林業機械を操作

大消費地である東京圏に近く、木の種類が豊富な山梨の林業の可能性は広がっています。卒業後は、個人としての活躍はもちろん「チーム富士川キャンパス」として、県内林業をけん引する人材に成長してくれることを、大いに期待しています。

高性能林業機械を活用した新しい林業にも挑戦したい

森林学科第1期生
藤本 千太さん



チェーンソーでヒノキを伐採する藤本さん

自然が好きな私は、高校で林業を学ぶ中で、より専門的な知識や技術を身に付けたいと思い、森林学科に進学しました。森林の中で身体を動かして学ぶ日々はとても充実しています。

林業は自然を相手にする仕事なので、安全確保と丁寧な作業を意識しながら実習に臨んでいます。授業で安全に効率良く作業ができる高性能林業機械を使った木材生産を学びました。このような先進技術を活用した新しい林業にも挑戦しようと考えています。

将来は、チェーンソーや高性能林業機械を使って木材を生産する県内の林業関係の会社で活躍したいと思っています。2年次も現場で生かせる知識や技術をしっかりと習得し、山梨の林業に貢献できる人になっていきたいです。



初めて経験することばかり日々成長を実感しています

森林学科第1期生
小澤 直弘さん



丸太を切る作業「玉切り」の説明を受ける小澤さん

中学生の頃から将来は林業や農業に携わろうと考えていましたが、経営や情報通信技術などの知識も必要になると思い、商業高校に進みました。2年生の時、県内に森林学科ができると聞いて入学を決めました。

この1年、初めて経験することばかりでした。8人の同級生と絆を深めながら講義や実習に取り組み、多くの資格を取得してきました。「基本的な知識や技術が身に付いてきているな」と成長を感じる場面も増え、達成感あふれる毎日を過ごしています。

卒業後は経営や情報通信技術などの知識と伐採などの技術の両方を生かせる森林組合で働いて、山梨の森林資源のより良い活用につながる仕事をしたいと考えています。